

所長の模型部屋（第8回）

模型を作られる皆さんは、どのくらいで一つのキットを完成させますか？もちろん、スケールや種類によって様々かと思うのですが、私は約2ヶ月（週末のみ作成）を基準に一台を完成させています。やはり飽きも来ますし、ダラダラ作るよりも集中して作って飾った方が楽しいですからね。次々と並ぶ装備車両を見てはニヤニヤしています。そんなペースで、先日完成したのが

99式自走榴弾砲です。



この車両を初めて見たのは東千歳駐屯地の第7偵察隊勤務の時で、同じ駐屯部隊の第7特科連隊に配備されたのを見て「なんちゅうでかい砲身なんだ！」と思いました。一緒にいた当時の偵察隊長も「列車砲レオポルド（旧ドイツ軍の列車砲）か！」と、その大きさに驚いたのを覚えています。

キットはピットロード社製です。24年7月の発売を楽しみにしていたのですが、地元の模型店では発売されなく、夏季休暇の時に秋葉原に行って購入しました。ネットで買えばいいのと思う方もいるでしょうが、やはり自分の手で確認しながら購入したいものです。



実物もでかけりゃ模型もでかい！射撃姿勢にすると写真も大きく縦仕様にしなければなりません。実車を見たとき、このでかい砲身がヌーツと動く様子は不気味さを感じました。



砲身が長くて重いため、移動の際は砲身をこの様に固定することとなります。留めるのは一箇所ですが、これだけ大がかりな固定装置を使うのですから砲身をはじめ砲耳（砲身基部と砲塔の可動部分）にかかる負担は大きいのでしょうか。



キャタピラは連結式で、ゴムパット装着の選択式ですが、ゴムパットを付ける以前に履帯そのものに「ゴムパット止めボルト」がモールドされていますので、パットを着けなければならない状況になっています。キャタピラの弛みは実車でもあまり大きくないのでほどほどにする必要があります。今回も接着剤を多めにし組み上げ、それなりに弛ませたのですが接着剤が乾くに従い張ってきてしまいました。結果的に良い弛み具合になったので良かったです。



砲塔上部においては特に手は加えていませんが、車長用ハッチ（正面から向かって左のハッチ）を少し回転させ、対空機関銃を若干斜めにして取り付けています。実車では重機関銃を正面に向けておくと前が見えなくなることから正面からやや内側に回転させていることの方が多いようです。ウェザリングスティックでハッチ周囲の泥を表現しています。





砲塔後部は、様々な観測機器を収納する雑具箱等が飛び出した形で装着されています。車体の後部ハッチから乗下車するときには頭をぶつけそうです。車体も大きく砲身が遠くに見えるため、後方から見た印象がかなり違うと思います。



正面と後方から見た99式。車体後部ハッチのスミ入れがまだよく拭き取れていませんでした（汗）。今回のスミ入れには初めてタミヤのスミ入れ塗料を使用しました。今まではタミヤエナメル黒を希釈して使用していたのですが、顔料の粒子が大きいのか綺麗に仕上がりませんでした。この塗料は使い易くて良いですね。いちいち調合しなくて良いし、面倒くさがり屋の私でも気軽にスミ入れが出来ます。

フック等、細かい部品も多いですが作りごたえのあるキットでした。さて、次回は・・

73式小型トラック



です。それではまた！